



出会い・ふれあい・語り合い  
～みらいよりあい～

## R7 北小校区 トライアル ⑤

11月22日(土)の午前中、くすのきの家で今シーズン5回目となる「未来寄合トライアル(北小校区)」を開催。参加者は、ゲストと市民参加者、事務局スタッフを含めて33名でした。

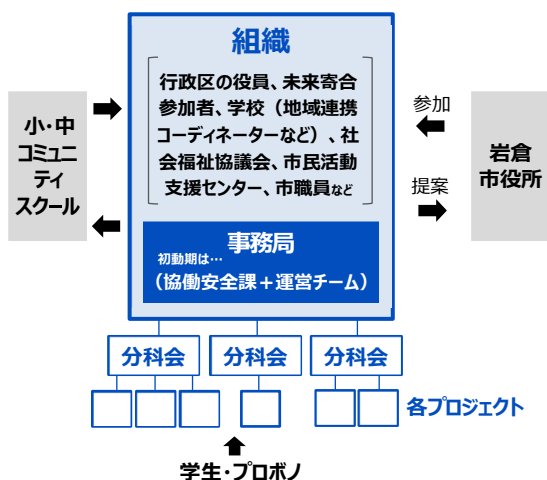
最終回となったこの日、これまでの北小校区の未来寄合を踏まえて事務局が作成した「持続可能な地域のあり方(仕組みや組織)」の試案について説明を聞いたあと、6グループに分かれ、試案の「■ここはイネ！」「■こうしたらもっと良くなるかも！」をふせんに書きだして、意見交換。最後に、グループごとの改善案をまとめて全体で発表・共有しました。熱気あふれる素敵な節目の会になりました！



## テーマ：持続可能な地域って？～地域のあり方検討②

### 1. フィードバック「持続可能な地域のあり方(案)ってこんな感じ？」

#### 新たな組織・仕組み(試案)のイメージ



協働安全課  
植手さん

現行の行政区を維持しながら、その枠を超えて人と情報がつながるように、小学校区を単位とした新たな「組織」を設けてみる感じでしょうか？

・**組織の目的**…地域住民が支え合いながら、地域の課題を自ら解決する仕組みを育てる。具体的な行動を生み出すことを重視する

・**組織の役割**…①情報共有とマッチング、②分科会による具体的な取組の支援、③成果の可視化と次の行動への橋渡し

・**事務局**…初動期は協働安全課が担う。近い将来のバトンタッチを見据え、協働安全課と一緒に取り組む「運営チーム」があるといい

・**分科会と各プロジェクトチーム**…課題に対して必要な行動を行う

・**市職員の関わり方**…まずは職員研修として、運営チームに参加

・**組織から市への提案方法**…現行の「政策提案制度」を活用

### 2. グループワーク「地域のあり方検討②」

※(○) = ○グループからの提案

#### ■組織の目的…

・協力し合うことによって、できないことをできるようにすることが目的 (D)

#### ■役割…

・地域課題の吸い上げをする組織に (B)

#### ■構成メンバー…

・行政区との関わりをどうするか (B)

・小・中との関わりに加えて、高校生や幼稚園・保育園の保護者なども加えたい。働いている世代、子育て世代も気軽に参加できる環境づくりが大事 (E)

・市内の企業・事業所に関わってもらえるといい (B)

・コミュニティスクールとの連携のためには、教育委員会にも関わってもらいたい (B)

・役はつくりず、サポーター制で、できることをできる人が行う (D)

・構成メンバーは、コアメンバーに加えて自由に参加でき、やれること、やりたいことを表明できる場があるといい (A)

・やれる人・やりたい人を、組織に外部連携された人材バンクに登録し、市民活動支援センターが主導でマッチングしたら？ (A)



## ■ 分科会・プロジェクト…

- ・負担を減らす工夫を（E）
- ・年代別にふれあえる場をつくる。清掃以外にも意欲的に取り組める活動の推進。顔が見える関係づくり（F）
- ・高校・大学生になる前に、地域への関心を深める（C）
- ・子ども会のあり方についての分科会、子ども会の良さを伝えるプロジェクト（D）
- ・スマホで登録など、気軽にできる人材バンク（D）
- ・中学生～大学生のサポーター（D）
- ・チラシ作成・周知のサポートがほしい（F）

チーム

A

小学校区単位の仕組みは、他市町でもやっていて一長一短ある。

やれる人・やりたい人を市の人材バンクとして登録してもらい、市民活動支援センター主導でマッチングしたらどうか？



チーム

D

できないことをできるようにするため、みんなで知恵を出し協力し合おうというのが組織の役割。

事務局は役をつけずサポーター制にし、できる人ができることをしたらどうか。

分科会では、「新」子ども会のあり方を考えたい。



チーム

B

コミュニティスクールの活動そのものが、学校を核として地域を育てていくという活動。学校との連携のためには教育委員会にも関わってもらいたい。

住民が楽しく主体的に関われることが基本！



チーム

E

現行の行政区の形も変えてもいいのでは？

働いてる世代、小さな子がいる家族も気軽に参加できる雰囲気、環境をつくる必要がある。事務局運営やプロジェクトも負担を減らす工夫が必要！  
稼ぐ仕組みもほしい。



## ■ 事務局…

- ・運営はオンライン会議などで参加の負担を下げたい（E）
- ・運営チームは有償か無償か？（F）
- ・協働安全課だけでなく、いろんな課の参加を（E・B）
- ・「事務局」⇒柔らかな名称にしたい（F）

## ■ その他、組織について…

- ・資金面を確保する「稼ぐ仕組み」があるといい（E）
- ・集まることのできる「場所」、「拠点」があるといい（B）
- ・「現行の行政区を維持」しなくても、形は変えていいのでは（E）
- ・現行組織にこだわらず、気軽に参加できる形に変えていく（F）

チーム

C

事務局が提示してくれたベース案は素晴らしい！あとはやれるかどうか。やらなきゃいけない！

中高生を含めた子どもたちのサポートをしていく中で、地域のコミュニティをつくっていききたい。



本日はこれまでにいただいたご意見をふまえ、協働安全課で何度も検討を重ねたうえで「試案」をお示しさせていただきました。

何分まだやったことないことなので不安はありますが、今日いただいた「失敗してもいい、気楽にやればいい」というご意見のように、あまり高い壁をつくらないでみなさんと共にやっていけるのが理想。有機的に柔軟に進めていければいいなと思っています。

たくさん貴重なご意見をいただいたので、それらを踏まえて最終的な案をつくり、またみなさんにお示しながら進めていければ、と考えています。今後ともどうぞよろしくお願いします。



協働安全課  
竹井課長

チーム

F

失敗しても間違ってもまずやってみよう！ということが大事。熱意があれば、こういう組織は回っていく。意欲が大事！！

組織にこだわらず、気軽に参加できる形に組織を発展させ、祭り文化の継承もしていきたい。



ひとこと  
アンケート  
より

熱のある議論ができ、良かった／地域のために熱く真剣な方がおられ、刺激を多く受けました／新たな組織体の試案を出していただいたことで、視覚化され、話が進めやすかったです／とにかくやってみよう、の考え方がいinaと思いましたが／固定の枠組みにとられない組織づくりが必要だと思いました／行政区が大切に守っていききたい役割を持続させるためにも、小学校区単位で一緒にやった方がいいことを仕分けして！ ほか

岩倉市役所 協働安全課（須藤・植手）

TEL (0587) 38-5803

FAX (0587) 66-6380

✉ kyoudouanzen@city.iwakura.lg.jp